

(様式 1)

令和 2 年 2 月 27 日

みどり市議会議員
大 澤 映 男 様

みどり市議会議員 金 子 實
新政クラブ代表

下記のとおり研修・視察が終了したので報告します。

期間	令和 2 年 1 月 22 日 (水) ~ 令和 2 年 1 月 24 日 (金)
研修・視察先 及び所在地	1 小野市 兵庫県小野市王子町 806 番地の 1 2 相生市 兵庫県相生市旭一丁目 1 番 3 号 3 びわこ競艇場 滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号
参加者氏名	金子實、上岡克己、松井篤、高草木弘子
目的	1 兵庫県小野市における小中一貫教育について 2 兵庫県相生市における子育て支援施策「11 の鍵」について 3 滋賀県びわこ競艇場運営状況について
概要	1 小野市は、兵庫県東播磨地域の中央に位置し、昭和 31 年 4 月に加東郡社町久保木、古川町を編入合併し現在に至っている。面積は 93.84 km² 人口 49,693 人で古くから、そろばん、家庭用刃物の生産地として発展してきた市である。 市の教育理念は、「国際社会の中でたくましく活躍できる、心豊かで自立した人づくり。」で、少子高齢化、人口減少社会、グローバル化、食料資源問題などの急激な社会情勢の中で、未来を切り開く原動力は教育という理念で取り組んでいる。 2 相生市は、兵庫県の西南端に位置し、姫路市まで 21 km で瀬戸内海の交通の要所でもある。風光明媚な瀬戸内海国立公園、西播磨丘陵県立自然公園など自然環境を生かした「万葉の岬」、「羅漢の里」、「白瀧城」などを整備し観光施設にも力を注いでいる。 市の人口減少の中、特に年少人口の減少率はマイナス 62% で兵庫県下最下位であり、この課題解決に向け国に先駆けた定住、子育て支援対策の取り組みを始めた。 3 滋賀県びわこ競艇場は、全国 24 競艇場の中で唯一県営である。開設は昭和 27 年 7 月 18 日で年間 186 日の開催で、外売り発売所 1 か所、京都府八幡市にボートピア 1 か所を運営している。



成果・所感

1 小野市における小中一貫教育について

議長川名善三氏、学校教育課主幹（課長）藤原正伸氏、学校教育課兼市民部主管（課長）友定聖征氏の出席のもと説明を受け、後に質疑応答を行った。

小中一貫教育は、平成16年小中連携教育から始まり、平成17年10月東北大学教授川島隆太氏が教育行政顧問に就任「脳の司令塔前頭前野を鍛える」ことは「生きる力」を育み、心の教育につながる。という脳科学に基づく幼児期の子育て、小中一貫教育の施策推進がされてきた。

小中一貫教育は、①9か年の学びのつながりを大切にした教育。②脳の発達時期を学習内容の高度化に対応。③小学校高学年の教科担任制による学力向上と自立に向けた社会性の育成。④小学校6年生が中学校へ登校し学習。⑤実態と特性を生かした共通の目標と一貫したカリキュラムの作成。など脳の発達時期に合わせた脳科学にもとづく取り組みを行っている。

また、「おの検定」という基礎学力を育てて、豊かな心を育む学習システムとして小中統一の独自検定を実施し、基礎学力の定着、主体的学び、家庭学習の習慣化の定着を目標に力を注いでいる。

更に、16か年教育としてマイナス1歳から15歳までを対象に市長部局と教育部局が連携し、脳科学の知見にもとづく子育て啓発事業で、基本的生活習慣、「生きる力」の基礎の育成を目的に家庭教育を支援、パパママ教育（年6回）、7か月児童教室（年12回）、子育て支援教室（年16回）を実施年間1、500人以上が受講している。

就学前は乳児期、幼児期への家庭教育支援。義務教育期間第Ⅰ期（小1～小4年）は生きる力の基礎養成期、義務教育第Ⅱ期（小5～小7年（中1））は大人への変容期、義務教育第Ⅲ期（中8～9年）は、夢と希望へ向かう自立期とし、めざす15歳の姿を共有し、一貫した系統的学びの確立へ一貫教育を推進している。

質疑応答では、保護者や市民の協力について、小中校舎の利用状況、川島隆太教授が顧問に就任した経緯についての質疑があった。

年少人口の減少を原因とする一貫教育でなく、脳科学に基づき構築され、保護者、市民、行政が一体となり取り組んでいること、説明職員の熱意とレベルが高いことが印象的で、有意義な研修であった。

2 相生市における子育て支援施策「11の鍵」について

議長楠田道雄氏、議会事務局長山本大介氏、副主幹坪田知己氏、企画総務部長玉田直人氏の出席のもと説明を受け、後に質疑応答を行った。

相生市は、兵庫県でも少子高齢化が進行し人口の減少が進んでいる。特に年少人口は県下最下位である。課題解決に向けて活力向上を目指す「第二次行財政健全化計画」がスタート、選択と集中により自主的、自立的な地域経営を目指す一施策として、子育て世代をターゲットに定住促進を図る。その姿勢を示すため平成23年4月1日「相生市子育て応援都市宣言」を行った。

そして、「あいおい暮らしやすい11の鍵」を市内外にPR展開している。

成果・所感

「11の鍵」は

① 新婚世帯家賃補助交付事業

市内の民間賃貸住宅に新たに入居する、結婚3年以内で夫婦のどちらかが40歳未満の新婚世帯に、月額1万円の家賃補助を3か年行う。

② 住宅取得奨励金

市内に住宅を新築または購入した40歳未満で夫婦または子供を養育している世帯に25万円を助成する。

③ 妊婦健康診査補助

妊婦が受診する妊婦健康診査にかかる費用を全14回分、102,000円を限度に助成。

④ 出産祝金支給

産婦人科（分娩施設）市内にないため、通院等での労力・交通費負担軽減と出産時のお祝いとして10,000万円を贈る。また、その子が3人目以降であった場合は次年度以降3年間毎年10万円を贈る。

⑤ こども医療費助成

県事業である小学4年から中学3年までの入院医療費の無料化に加え、市単独事業として通院医療費の自己負担分を助成し、無料化を図る。

⑥ 子育て応援券交付

子供が生まれた親に、0～2歳まで有料の子育て支援サービスに利用できる、子育て応援券20,000円分を贈る。

⑦ 3歳児保育事業

市立幼稚園全6園では、幼児期に基本的な生活習慣を身に付けるため、3歳児保育を実施。

⑧ 市立幼稚園預かり保育事業

4～5歳児を対象に通常保育終了後16時30分まで、無料で預かり保育を実施。

⑨ 給食費無料化

市立幼稚園、小中学校で栄養の摂れた給食の提供と無料化。

⑩ 相生っ子学び塾事業

児童の安全な放課後の居場所づくり、自学自習と基礎学力の向上を目的に地域の人々や教員OBの協力のもと、小学6年生を対象に国語、算数、英語などについて実施。

⑪ ワンピース・イングリッシュ事業

幼児期から中学校卒業まで、段階に応じた英語教育のため、総合的なプログラムを実施。※専属FLTの配置

定住施策・子育て支援施策開始以降、人口の社会増減の幅が約半減しており、施策に一定の効果が認められる。今後も長期的に取り組んでいく必要がある。

質疑応答では、認定こども園、学校給食給食の無料化による財政負担などの質疑があった。財政の健全化を図りながら、定住促進や子育て支援を充実していきたいとの姿勢は印象的で、有意義な研修であった。

成果・所感	3、びわこ競艇場運営状況について 本場開催中のため職員1名から施設の状況、売上や一般会計への繰り出し金、施行者体制について説明があった。 売上状況と繰り出し金については、平成2年度518億円を最高に年々減少し、平成30年度は382億3、200万円で、一日当たりの売上は2億0、549万円、一日当たりの利用者数は57、599人（電話・外売り・ボートピア含む。）である。一般会計への繰り出し金は4億円である。 現在の執行体制は、職員18人とその他嘱託職員20名計38人で、従業員は74人体制で運営している。 質疑応答では、売上額や繰り出し金、桐生競艇場のナイターレースなどが話題となり、有意義な研修であった。
--------------	---

上岡克己

小野市は兵庫県の中南部加古川の中流部に
ある田園都市で、そろばんと家庭用刃物の生産地
として「順調な発展を遂げている。

そろばんの生産は、特に盛んで「播州そろばん」の
名で知られ、全国生産高の約80%を占めている。播州
そろばんの歴史は、1578(天正6)年に豊臣秀吉が
三木城を攻めた時に、~~ここ~~からのぼる。

この時、近江(今の滋賀県)にのべれた住民が
「大津そろばん」の技術を持ちかえたとに始まる。

また、播州に昔から根付いている食物産業は、刃の
鍛造が元々の始まりだと言われており、250年以上の
歴史をもつ小野市の地場産業です。その中で「小野
金物」は家庭の刃物を中心に発展を遂げ、その切れ味
と耐久性はもとより、精練された造形美術の美しさは、
全国的に高い評価を得ている。

また、播州鍛冶は、兵庫県の伝統的工業に指定
されている。

そして、小野市民憲章では大きく四部門がなっていて、
とてもわかりやすい市民憲章です。

1. 誠実で意欲的な人になろう。
2. 良き市民の育つ家庭をつくりましょう。

1. 活気のある健康なまりをきずきよきよう

2. 野市行政経営戦略 4つの柱

1. 顧客満足度志向

市民＝顧客ととらへ、市役所は市内最大のサービス産業の拠点。

2. 成果主義 一何かやって、いるのかではなく、何をもたらしたかを重視。

3. オニリーワン ここにしかない、小野らしい。

4. 先発手管理 言われてやるのではなく、言われる前にやる。

行政経営戦略 4つの柱は、まさに物事を進めるべき方針のあり方に大きな参考となり、より研修にあってと思っております。

相生市

「子育て応援都市」を宣言。

子育てしやすい環境を整へ。

人口減少対策や定住促進を推進

している「みいおい暮らしやすい

「11の鍵」の研修について興味
を注がれました。

特に「段階に応じた英語教育の
総合的なプログラムの実施は、みどり市
で新規事業として取り上げてもよいの
ではないか」と思います

ひの湖 競艇場 視察

スタンプからは、三方が見通しのよい
湖面で、説明によると水が硬
くて、乗りこなすのは、容易でない。

風が吹かなければ、穏やかな
静水面で、吹けば、波浪やうねる水面
に変わる。といった、極端な差異が
あるなど、研修をした。

琵琶湖の素晴らしい景観にしばし、
佇んでいました。

たけす

訪問時の整備の方の親切な
ご案内に感心しました。ここへ来て
よかったと思いました。

桐生競艇 では、どうなのかな、小さな
心が大きな力になるのではないかと早速
お話しをしようと思う。

【みどり市議会議員 松井篤（新政クラブ）】

1. 小野市の成果・所感

小野市の小中一貫教育は、小規模の学校の統廃合や予算の削減を目的としたものでなく、「脳科学に基づく教育」や「児童・生徒の指導面」から、平成28年4月より市内全校で、学びのつながりを重視し自立を目指す小中一貫教育をスタートし、児童生徒の学力の向上と生徒指導のより一層の充実を図っています。

制度上の小中一貫教育には、義務教育学校（小学校と中学校を1つの学校にし、校長や教頭をそれぞれ1人置く）、同一の設置者による併設型の小学校と中学校、異なる設置者間による連携型の小学校と中学校の3つの実施形態がありますが、小野市は中学校4校と小学校8校を4つのゾーンに振り分ける併設型の形態を取っています。

小野市は教育振興計画の基本理念として『国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した人づくり』を掲げており、少子高齢化・人口減少社会、グローバル化、高度情報化、食料・資源問題などの急激な社会情勢の変化の中で、未来を切り拓く原動力は人づくり、すなわち教育であるとしています。

（1） 小野市における小中一貫教育の特色

①「16か年教育」の一環としての小中一貫教育

義務教育が終了する「15歳の姿」をイメージし、「キャリア教育」の視点を大切に、こどもたちの夢と希望をかなえる教育を展開。

②脳科学理論を生かした前頭前野の発達を踏まえた各成長段階に応じた9カ年の小中一貫教育。

（2） 小野市における9か年の捉え方

「4・3・2」の各成長段階に応じた9カ年一貫した教育を展開。

①義務教育第1期（生きる力の基礎養成期）1～4年生

児童が受容的で、生活・学習の基礎を固める重要な時期（学級担任制）。じっくり生きる基礎を習得・定着。 ➡ 「わくわく感」のある意欲的な学び。

②義務教育第2期（大人への変容期）5～7年生

自立した考え方を始める時期。教科内容が難しくなり、心理的にも揺らぎやすい時期。「10歳の飛躍」おとなの脳に発達。 ➡ 「知的好奇心」に基づく主体的学び。

③義務教育第3期（夢と希望に向かう自立期）8～9年生

将来に対する目標を持ち、夢と希望の実現へ向かう時期。思考力と創造力が大きくアップ。 ➡ 「目標意識」を大切に自立した学び。

（3） マイナス1歳から15歳までの「16か年教育」

①1st ステージ(就学前) ➡ 脳(前頭葉)が爆発的に成長。親子の触れ合いで多くのことを学ぶ時期。

② 2nd ステージ(5～10歳) ➡ 脳(前頭葉)はゆるやかに成長。生活や学習の基礎を固める時期。

③ 3rd ステージ(10～15歳) ➡ 「10歳の壁」の後、再び急激に脳(前頭葉)が成長。主体的に学び生きる力を育む時期の3つに大別できます。

前頭前野の働きは、やる気・行動を抑制する力・感情のコントロールなどの知徳であり、読み・書き・計算・音読・コミュニケーションにより鍛えることができますので、「おの漢字検定」、「おの計算検定」、「おの体力検定」により児童・生徒のやる気を育てるとともに市民検定も実施しています。

視察研修の対応は職員の研修の場であるという考え方に立ち、多くの研修を受け入れていることや、兵庫県内の都市中最少の職員数(平成29年度の一般職員282人、うち66人が消防職員)にもかかわらず前例踏襲にとらわれず、児童生徒の指導や学校独自の研究活動を最優先に、学校と教育委員会の新しい関係を構築し、教育委員の学校定例訪問の廃止や市の研究指定の廃止、教員の定例教育後援会の廃止、卒業式の告辞の廃止などに果敢に取り組んでいることに大変興味深く感銘いたしました。みどり市の教育関係者にもぜひ全国から注目を集めている小野市の教育について、調査・研究する機会を設けていただきたいと思います。

2. 相生市の成果・所感

相生市には山陽新幹線の駅があり、西の岡山市へ20分、東の姫路市へ10分・神戸市へ35分という短時間で直結しており、相生駅は山陽新幹線だけでなく山陽本線の乗り入れや赤穂線の起点駅となっています。また、山陽自動車道の辰野西ICから10分でアクセスでき、市内を国道2号線も横断し、この地域の交通の要衝にもかかわらず、なぜ急激な人口減少に直面しているのか驚きというよりも疑問さえ感じました。

相生市は、石川島播磨重工業の企業城下町として造船で栄えてきましたが、造船業の不況とともに、人口が昭和49年の42,188人を最高に、平成30年は29,526人に落ち込み、消滅都市の一つに数えられる程に激減しています。

特に、平成14年の「国庫補助負担金の廃止・縮減」「税財源の移譲」「地方交付税の一体的な見直し」による国の三位一体の改革の影響により、危機的な財政状況に直面し、平成17年3月に「相生市財政SOS宣言」を行い「第1期相生市行財政健全化計画」を策定し平成18年4月よりスタートさせました。

(1) 第1期相生市行財政健全化計画(平成18～22年度)

持続可能な行政運営を図るため、①市民の受益者負担、②投資的経費事業の見直しと平準化、③職員数、人件費の削減(平成29年度の職員数219人)、④下水管理センター・図書館業務などの民間委託等により、5年間で当初予算額の20%削減、27.6億

円の効果を達成しました。

しかし、財政面の目標を達成した中で、将来の人口減少が最重要課題として浮き上がってきました。特に年少人口（１５歳未満）が平成１７年（２００５年）の国勢調査で兵庫県下最下位、人口問題研究所が予測する２０４０年の推計人口はマイナス６２％で、３０年後も年少人口が兵庫県下最下位のままであり、年少人口の減少は、将来の相生市の人口に大きく影響することが判明しました。

この課題を解決するため、平成２３年度に「第２期相生市行財政健全化計画」をスタートさせました。

（２） 第２期相生市行財政健全化計画（平成２３～２７年度）

①転出抑制と転入促進による社会人口減少対策、②教育・子育て・少子化対策、③企業誘致や市内経済の支援による産業の活性化対策に重点を置き、活力ある元気な相生市づくりに着手。特に、平成２３年４月１日に「相生市子育て応援都市宣言」を行い、選択と集中による投資により、子育て世代をターゲットに暮らしやすい定住促進関連事業として『１１の鍵』を展開。

（３） 定住促進関連事業の『１１の鍵』（平成２３～）

①新婚世帯家賃補助金交付事業 23,850 千円（平成３１年度当初予算の事業費）【市内の民間賃貸住宅に新たに入居する結婚３年以内で、夫婦のどちらかが４０歳未満の新婚世帯に、３年を限度に毎月１万円の家賃補助】 ②住宅取得奨励金交付事業 17,500 千円【市内に住宅を新築または購入した４０歳未満の夫婦、および子供を養育している世帯に２５万円を助成】 ③妊婦健康診査補助事業 19,416 千円【全１４回分、１０２千円を限度】 ④出産祝金支給事業 2,403 千円【出産時の祝金１万円、３人目以降の子は次年度以降３年間毎年１０万円】 ⑤乳幼児等・こども医療費助成事業 43,000 千円【１５歳までの医療費が無料】 ⑥子育て応援券交付事業 5,870 千円【０～２歳まで２万円をプレゼント】 ⑦３歳児保育事業【幼稚園を３歳から】 ⑧私立幼稚園預かり保育事業 5,757 千円【４・５歳児の預かり保育を無料】 ⑨給食費無料化事業 106,544 千円【幼・小・中学校完全無料】 ⑩相生っ子学び塾事業 3,595 千円【小学校５・６年生の希望者を週１回の国語と英語及び月２回の英語と月３回の珠算を無料で実施】 ⑪ワンピース・イングリッシュ事業 24,784 千円【幼児期から中学校卒業まで充実した英語教育】などの教育・子育て・少子化対策の『１１の鍵』により定住促進に取り組んでいます。

定住施策開始時には、『なぜ子育て世代だけの支援なのか。給食費は保護者が負担すべきでないか。高齢者福祉サービスが後退するのではないか。財政的に続けていけるのか。』などの不安視する意見が多くありましたが、実施後も常に市民の声に耳を傾け、『１１の鍵』の事業内容の検証や変更などに活かし、平成３０年度には実施後８年間の平均値で、①出生数は２００人台を維持、②社会増減数の減少幅が実施前の約半分の７０人で、概ね目的達成しています。

財政面では財政力指数が０．５６、経常収支比率が９８．８％台（平成２９年度決算）

で大変厳しいことも事実ですが、次のステージとして、「子育て・教育支援、定住促進施策」＋「地域資源を活用した交流人口の獲得や地域経済の活性化」により、「相生市の活力上昇計画」をスタートさせています。

相生市の特筆すべき点は、①平成２８年の国の地域創生総合戦略に先駆け、行財政健全化の観点からスタートし、平成２３年より子育て・教育支援や定住促進により将来の人口ビジョンに取り組んだこと、②人口が減少することは避けられないことであることを前提に、いかに人口減少率を鈍化させるかに重点を置いたこと、③選択と集中により、行政資源の均一的配分（あれもこれも）から脱却した自主的・自立的な地域経営、④変化に柔軟に対応する組織力の確立であり、大いに感心させられました。

５年目を迎えたみどり市の「人口ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にも取り入れるべき、大変貴重な実践事例や施策の捉え方や考え方を拝聴することができ大変有意義な研修・視察となりました。

３．滋賀県総務部事業課の成果・所感

BOAT RACE びわこの運営形態は、滋賀県総務部事業課による直営であり、全国の２４場の中で唯一県営である。

従事員数は、職員６７人、アルバイト従事員７人の総数７４人。施行者職員数は、職員１８人、公営競技調査員（警察OB）９人、場外発売場調査員６人、電気技術嘱託員４人、嘱託産業医１人の総数３８人です。

平成３０年度の開催日数は、本場１８６日、場外１１４日（うちナイター１２日）の計３００日で、約１０，７１３千人の利用者と約２２４千人の入場者があり、売上金額は約３８２億円です。県の一般会計への繰出金は４億円で、みどり市の競艇関連収入とほぼ同額となっています。

今後も、他 BOAT RACE 場の研修・視察に積極的に参加して、状況把握に努め勉強したい。

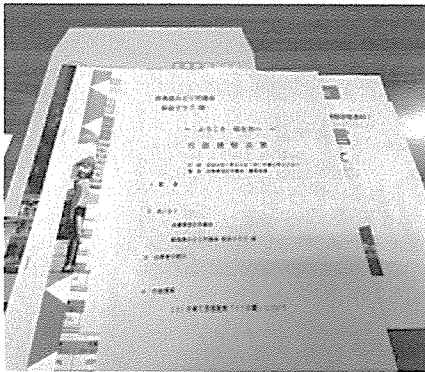
行政視察(1/22~1/24)

新政クラブ 高草木弘子

・兵庫県小野市 (1/22)



兵庫県東播磨地域のほぼ中央に位置している。明治22年の市制町村制施行により小野村(のち小野町)、河合、来住、市場、大部、下東条、福田の村が誕生したが、昭和29年12月1日に小野、河合、来住、市場、大部、下東条の6つの町村が合併して市制を施行、昭和31年4月1日には加東郡社町の久保木、古川を編入合併し、現在の小野市が誕生した。



古くから、そろばんと家庭用刃物の生産地として順調な発展を遂げてきたが、主要幹線道路の整備や新都市建設などを契機に、東播磨の中心都市として一層の飛躍を遂げようとしている。人口は平成31年3月31日時点で48,560人(15歳未満6,688人、15~64歳28,298人、65歳以上13,574人)で19,951世帯。



「国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した人づくり」少子高齢化・人口減少社会、グローバル化、高度情報化、食料・資源問題などの急激な社会情勢の変化の中で、未来を切り拓く原動力は人づくり、すなわち教育であるとの小野市の基本理念に同感で、最も重要なのはまず人づくりだと考える。

『大人のDS』で著名である東北大学教授川島隆太氏が平成17年10月、小野市教育行政顧問に就任。脳の発達時期に合

わせた脳科学に基づく取り組みを行っている。



視察前は小中一貫モデルということで、学力に特に力を入れ、取り組まれているのかと思っていたが、学力向上のみではなくプラスの効果、例えば早寝早起き、バランスのとれた食事、しっかりとした睡眠といった基礎的なものや社会性の育成をまち全体で取り組んでいることが分かった。子どもが生まれる前から関わっていくことを大切にしている様子が多く見られた。小中一貫教育というよりも小中連携ということの方が合っている取り組みであった。

相生市 (1/23)



相生市は兵庫県の西南端に位置し、姫路市まで 21km であり、瀬戸内海の交通の要所となっている。瀬戸内海国立公園、西播磨丘陵県立自然公園など自然環境を生かした「万葉の岬」、「羅漢の里」、「白瀧城」などを整備し、観光事業にもかなり力を注いでいる。



兵庫県内でも相生市は少子高齢化が進み、人口減少が進んでいる。特に年少人口は県下最下位である。その議題解決に向け、子育て世代をターゲットに定住促進を図る。平成 23 年 4 月 1 日「相生市子育て応援都市宣言」を行い、「あいおい暮らしやすい 11 の鍵」を市内外へ積極的に PR を行っている。「11 の鍵」は①新婚世帯家賃補助交付事業②住宅取得奨励金③妊婦健康診査補助④出産祝金支給⑤こども医療費助成⑥子育て応援券交付⑦3 歳児保育事業⑧市立幼稚園預かり保育事業⑨給食費無料化⑩相生っ子学び塾事業⑪ワンピース・イングリッシュ事業である。定住・子育て支援施策開始以降、人口の社会増減の幅が約半減しており、施策に一定の効果が出ている。子育てに特化し定住事業へ繋ぐ。こちらの市においても子育て以前の取り組みに感銘を受け、きめ細やかな子育て支援を学んだ。



滋賀県びわこ競艇場においては1月24日に視察させて頂いた。びわこは24競艇場の中で唯一県営であり、開設は昭和27年7月18日、年間186日の開催で、外売り発売所1か所、京都府八幡市にボートピア1か所を運営。

本場催中のお忙しい中、職員の方より売上や一般会計への繰り出し金、施行者体制、駐車場が会場より離れた場所に確保されているためそれについての問題点などについて丁寧な説明を受けた。売上状況と繰り出し金については平成2年度518億円を最高に年々減少し、平成30年度は382億3200万円で、一日当たりの売上は2億549万円、1日あたりの利用者数は57,599人(電話・外売り・ボートピア含む)である。

桐生競艇場のナイターレースのことが話題に上り、桐生競艇場の特化している点を実感することや、比較することができた。とても有意義な研修となった。